

ロータリーソングよもやま話 2 の 1

ロータリーソングの位置づけ

例会にロータリーソングは欠かせないものですが、ロータリーソングはなぜ歌うのでしょうか。クラブ定款にも、細則第 13 条「議事の順序」(例会次第)にもロータリーソングを歌えとは書いてありません。

ロータリーソングのおこり

ロータリーの 100 年を越える歴史において、「歌を歌うこと」を始めた人物は、1905 年にロータリーが創立した時に創始者ポール・ハリスら最初の会員 4 人に次いで 5 番目にロータリーに入ったハリー・ラグルスでした。

1907 年、ロータリー誕生後 2 年目にポール・ハリスがシカゴロータリークラブ第 3 代目の会長になった頃、ささいな意見の相違が次第に大きくなり、シカゴクラブ内が割れ、出席率も低下するという事態が起こりました。親睦派と奉仕派との間に意見が対立し、時の親睦委員長の医師ウィリアム・ネフは、「このままではクラブは崩壊する。君が毎週立ち上がり、楽しく歌ってこの危機を救ってくれ」と印刷屋のハリー・ラグルスに懇願します。ラグルスは当時流行っていた歌を何曲か音頭を取って歌って以来、クラブの団欒は甦り、これが何年も続いて、例会での合唱はロータリーの伝統となりました。

日本のロータリーソング

日本最初のロータリークラブは、1920 年創立の東京ロータリークラブですが、初めの頃は「ロータリーソング」として英語のまま歌っていたそうです。

やがて、日本語によるロータリーソングを求める声が高まり、「奉仕の理想」や「我等の生業」が昭和 10 年(1935 年)に京都における地区年次大会において日本語ロータリーソング入選作として発表されました。戦争中は「君が代」の斉唱が始まりました。昭和 24 年(1949 年)日本は国際ロータリーに復帰しますが、昭和 26 年(1951 年)にロータリーソングが募集され、「手に手つないで」が作られました。これは、昭和 27 年(1952 年)7 月から、日本のロータリーが 2 つの地区に分かれるという事態にあたり、これからも友情を確かめ合い、手に手つないでいこう、と誓い合った歌です。「それでこそロータリー」も古く、昭和 28 年(1953 年)に誕生しています。

世界のロータリーでは

この習慣はアメリカの多くのクラブに波及し、今日では、オーストラリア、日本、ナイジェリア、ニュージーランド、カナダなどのさまざまな国のロータリー例会におけるポピュラーな親睦行事となっています。

国際協議会でも、毎朝、本会議が始まる前に各国で親しまれている歌を皆で歌います。歌い方も様々で、例会の始めに国歌を歌うクラブもあれば、童謡を必ず歌うところも見られます。しかし、ヨーロッパ、南米、アジアのロータリークラブの例会で、ロータリーソングが歌われることはあまりないようです。

(文責 丹治正博)